

メタバース上で採用説明会

NTT東日本千葉事業部が運営サポート

市原市は先月27日（月）、NTTの仮想空間プラットフォーム「DOOR」を活用し、メタバース上で市職員採用説明会を実施した。同市にとってメタバースで説明会を開く

のは今回が初めて。具体的には事務職、保健師職、消防吏職それぞれの空間をつくり、志望の参加者は7人、

望者はアバターを使って、志望する職種の空間に参加した。事務職

保健師職は1人、消防吏職は1人の合計9人が参加した。

同市では、対面による説明会は時間や距離の制限により参加が難しい場合があり、またZoomなどの会議システムでは、市職員から参加者へ一方的に説明する傾向があり、コミュニケーションが図

りにくいという課題を認識していた。

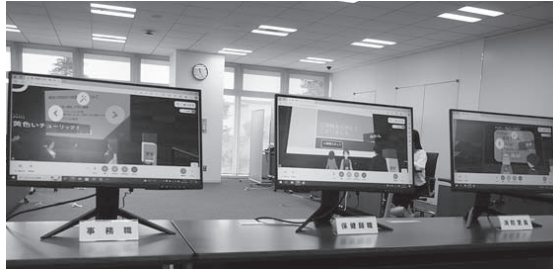
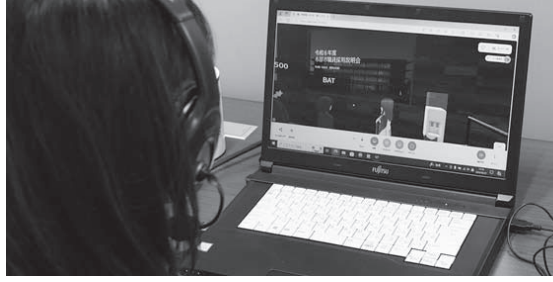
同市総務部情報政策課の中田直樹課長は、メタバース説明会について「対面でするよりも、突っ込んだやりとりのをしていた。お互い理解するという意味ではよかった」と言及する。

参加者からは「メタバースという新しい取り組みに参加してみたかった」「アバターだと相手の顔が見えないので、むしろ話しやすい」という声が寄せられた。

中田課長は、課題として通信環境を挙げた。「市側の通信環境が相手側の通信環境かはわからないところもあるが、話がきちんと聞けなかった部分があるので、この辺をどうするか、今後検討していきたい」と話す。メタバースに関しては、マッチするコンテンツを考えながら、ほかのイベントにも活用していく方針だ。

今回の説明会は、NTT東日本千葉事業部が企画や運営をサポートした。

同社まちづくり推進担当の羽生賢司課長は「メタバースは、これからの技術だが、将来的には当たり前になるとみている。市原市さまは、さまざまなアイデアをお持ちなので、当社も一緒にトライアンドエラーでチャレンジしていきたい」と話す。



市職員採用説明会の様子